「この人　94」　金澤　健　64 歳　兵庫県

編集部　滑稽俳句を始められたきっかけは？

金　澤　五十歳頃、「老後の趣味を持とう」と決めて、消去法で選んだ結果、残ったのが俳句と川柳でした。当初は独学で両方やっていました。その頃は仕事も忙しく、両方やるのはしんどかったので、両方のルーツである俳諧文学を研究した結果、「滑稽を持ち味とする五七五句」をつくればいいとの結論に達しました。季語が旨く入れば滑稽俳句、入れるとつまらなくなるものは川柳句としています。

編集部　滑稽俳句の魅力とは？

金　澤　スリルとサスペンスと理智の働きと思っています。自分では「おかしみがある」と思って作句しても、読者には感じ取ってもらえない（所謂、スベル）危険性がありますからね。

編集部　俳句における「滑稽」とは？

金　澤　世界でもユニークな文芸である俳諧の真髄は、「俗」と「滑稽」と考えます。その意味で、滑稽味のない俳句はルーツである俳諧の精神よりズレているのではないでしょうか。

編集部　滑稽俳句を続けて良かった事は？

金　澤　俳句はなんと云っても句会です。滑稽という感動を共有し合える句会仲間には、同士的つながりを感じます。そのような仲間と出会えたことが最大の成果です。

編集部　滑稽俳句を作るコツは何でしょうか。

金　澤　とにかく「ボーッとする」ことが私のやり方です。言葉やユーモアが湧き出るのを、ボーッとしながらひたすら待っています。

掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

「この人　93」　　中井　勇　71 歳　愛媛県

【代表句】

涼しさを説く高僧の玉の汗
海水浴子の目じるしの母の尻
嘉手納基地出入り自由の大南風
口閉じて顔取り戻す燕の子
生き馬の目を抜きほっと独り酒（川柳句）

掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。